

令和8年度 第1学年 国語科年間指導計画・評価規準

1 評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
項目	<p>言葉の働き、話し言葉と書き言葉、漢字、語彙、文や文章(文法)、言葉遣い、表現技法、書写、伝統的な言語文化(古典)、文学史、情報の扱い方に対する事項(情報と情報の関係、情報の整理)、読書</p> <p>・以上の項目のうち、知識、技能に関する課題の達成度を、テスト、成果物、観察のいずれかで評価します。</p> <p>・以上の項目に関する知識、技能の活用力を問う課題の達成度を、テスト、成果物、観察のいずれかで評価します。</p> <p>漢字・文法・書写・語彙・古典の知識・文学史・表現技法・情報の扱い方に対する理解</p>	<p>【話すこと、聞くこと】</p> <p>話題の設定、情報の収集、内容の検討、構成の検討、考えの形成、表現、共有、構造と内容の把握について、テスト、成果物、観察等で達成度を評価します。</p> <p>(例)</p> <p>・スピーチ、発表、弁論、聞き取りテスト、話し合い、討論、インタビュー等</p> <p>【書くこと】</p> <p>題材の設定、情報の収集、内容と構成の検討、考えの形成、記述、推敲、共有について、達成度をテスト、成果物、観察等で評価します。</p> <p>(例)</p> <p>・随筆、意見文、小論文、評論文、物語文を作成する等</p> <p>【読むこと】</p> <p>構成、構造、内容の把握、精査、解釈、考えの形成と共有について、達成度をテスト、成果物、観察等で評価します。</p> <p>(例)</p> <p>設定や構造の読解、内容の読解、収集した情報を活用し、考えを形成する課題等</p>	<p>その単元で示された知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現を身に付けたりすることにに向けた、</p> <p>(1)粘り強い取組 (2)自らの学習状況を把握し、調整する力</p> <p>を成果物、観察等で評価します。</p> <p>・以上の項目について、ノートやレポートワークシートの内容、課題への取組み方、授業への姿勢、振り返りカード等の自己評価、相互評価の状況等</p>

2 年間指導計画

【知技】(1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項

学期	月	単元名	時数	学習内容	評価規準と評価の観点
1 学期	4	情報を聞き取り要点を伝える	1	・情報を的確に聞き取り、要点を伝える必要がある場面を想定し、聞き取り練習を行う。	【思判表】日常の話題について、聞き取った情報を整理し、伝える内容を考えている。(話間)ア
		言葉に出会うために声を届ける/書き留める言葉調べ	2	・音読・発表のしかた、ノートの書き方の工夫、言葉の調べ方・書き留め方を理解する。	【知技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ
		文法Ⅰ 言葉の単位	2	文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解する。	【知技】単語の類別について理解している。(1)エ
		言葉Ⅰ 音声の仕組みや働き	1	・母音と子音、発音の仕組み、音の高さ・強さ、アクセントやイントネーションについて理解する。	【知技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア
	5	朝のリレー	2	・詩の特徴を生かして音読し、音声の働きや仕組みについて、理解を深める。	【知技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア
		漢字Ⅰ 漢字の組み立てと部首	1	・漢字を組み立てている部分や組み立て方について理解している。	【知技】漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。(1)イ
		はじまりの風	4	・場面ごとの心情の変化を図を用いて整理したり、表現を手がかりに心情の変化を捉えたりできる。	【思判表】場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(読む)イ

	語彙を豊かに	1	・心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。	【知・技】心情を表す言葉を集め、似た意味の言葉の語感の違いに注意しながら、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。
	ダイコンは大きな根？	2	・文章の中心となる部分を捉えたり、付加的な部分の段落の役割について考えたりする。	【思判表】文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(読む)ア
	ちょっと立ち止まって	3	・文章の構成に着目し、その役割を考えたり、要旨を捉えたりする。	【思判表】序論・本論・結論の段落のまどまりに着目し、要旨を捉えている。読むア
	情報整理のレッスン (比較・分類)	1	・情報を比較・分類する方法を確かめ、理解する。	【知技】情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。(2)イ
	発見したことを分かりやすく書く	4	・日常生活の中から題材を決め、情報を集め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして文章を書く。	【思判表】目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(書く)ア
6	言葉 2 指示する語句と接続する語句	1	・指示する語句と接続する語句について理解し、学習したことを日常にいかせるようにする。	【知技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深める。
	話の構成を工夫しよう	4	・一枚の写真について、話す材料を集め、話の構成を考えて原稿を考え、スピーチする。	【思判表】話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(話聞)イ 【思判表】相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(話聞)ウ
	言葉 3 さまざまな表現技法 ／比喩で広がる言葉の世界	1	・表現による印象の違いを確認し、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。	【知技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解し使うことができる。(1)オ
	空の詩 三編	3	・詩の言葉や表現に着目し、詩の情景を想像するうえで、特に効果的だと感じた表現についてまとめる。	【思判表】詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。(読む)エ
	詩の創作教室	1	・「空の詩 三編」を参考に、表現を工夫して詩を書く。	【思判表】自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。(書く)ウ
	文法 2 ①文の組み立て	2	・言葉の関係について考え、「文節どうし関係」を理解する。	【知技】単語の類別について理解している。(1)エ
	情報を整理して	1	・著作権について知り、情報を集め、出典の書き方や引用の仕方を理解する。	【知技】本やインターネットで調べた情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方を理解している。(2)イ
	情報収集の達人になろう	2	・日常生活から自分が選んだテーマについて、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えてまとめる。	【思判表】書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。(書く)イ
7	いつも本はそばに①	1	・読書コラムを参考に、作品の続きを読んだり、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりする	【知技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ
	古典の世界／音読を楽しむ いろは歌		・「いろは歌」を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。	【知技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア
	言葉 4 方言と共通語	1	・教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。	【知技】共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ

2 学 期	9	漢字 2 漢字の音訓	1	・「音」と「訓」の歴史や性質を理解し、短文を作成する。	【知技】漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。(1)イ
		大人になれなかった 弟たちに……	4	・描写に着目して登場人物の心情を捉え、その後、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて考える。	【思判表】場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(読む)イ
		思考のレッスン1 意見と根拠	1	・意見の根拠を明確に示すことの大切さを理解し、適切な根拠について考える。さらに、意見と根拠の結び付きを考える。	【知技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア
		「言葉」をもつ鳥、 シジュウカラ	5	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係明らかにし、文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にして考える。	【思判表】文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(読む)エ
		根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する	5	・引用の仕方に注意して、調べたことを資料やデータとして適切に処理し、考えたこととともに、レポートにまとめる。	【思判表】根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(書く)オ
		星の花が降るころに	5	・場面や描写を結び付けて内容を解釈し、同じ物や場所が描かれている場面や描写を、図などを使って整理・比較し、どんなことが読み取れるか伝え合う。	【思判表】場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(読む)ウ
		文法 2 ②文の組み立て	1	・言葉の関係について考え、「連文節」「文の成分」を理解する。	【知技】単語の類別について理解している。(1)エ
		10 蓬莱の玉の枝 ——「竹取物語」から	4	・「蓬莱の玉の枝」に登場する人々の思いや行動について考え、現代との共通点・相違点を考える。	【思判表】文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを深めている。(読む)オ
		項目を立てて案内文を書こう	4	・情報を整理して構成を考え、身の回りの案内文などを参考にしながら項目立てて、案内文を書く。	【思判表】相手が必要とする情報を明確に伝えるために、書く内容の中心を決め、段落の役割や構成・展開を考えながら、案内文を書いている。(書く)イ
		【推敲】読み手の立場に立つ	1	・他者と相互に読み合い、助言をもとに読み手の立場に立って、案内文を推敲する。	【知技】読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。書く(エ)
	聞き上手になろう 質問で話を引き出す	2	・聞き方や質問のしかたを学び、それを生かした対話の練習をする。	【思判表】話し手の話に耳を傾け、質問のしかたを工夫しながら対話をし、話を十分に引き出している。(話聞)エ	
	文法 2 ③文の組み立て	1	・言葉の関係について考え、「文の組み立て」を理解する。	【知技】単語の類別について理解している。(1)エ	
	11 聴きひたる 大阿蘇	1	・朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わい、繰り返しの表現や、繰り返しながら変化していく表現などを理解する。	【知技】事象や行為、心情を表す語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ	
	思考のレッスン2 原因と結果	1	・原因と結果を抜き出し、どのようになっているかを整理する。	【知技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	

	「不便」の価値を見つめ直す	3	・本文を要約し、筆者の主張について検討する。	【思判表】目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(読む)ウ
	[書く]筆者の主張に対する自分の意見を書こう	2	・筆者の主張に対する自分の意見を書く。	【思判表】根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(書く)ウ
	[話し合い(進行)] 進め方について考えよう	2	・「よりよい話し合いにするために」を読み、話し合うときに効果的な工夫について理解し、実践する。	【思判表】話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(話聞)オ
	いつも本はそばに②	1	・読書の意義を理解し、続きを読んだり近いテーマの本を読んだりする。	【知技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ
	話題や展開を捉えて話し合おう～グループで語り合い、ものの見方を広げる～	4	・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(話聞)オ	【思判表】話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(話聞)オ
12	文法3 ①単語の分類	1	・「自立語・付属語」・「活用の有無」について理解する。	【知技】単語の類別について理解している。(1)エ
3 学 期	1 今に生きる言葉	3	・故事成語について理解し、自分の生活と結び付けて考える。	【知技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア
	[書く]故事成語を使って体験文を書こう	2	・自分の体験を思い出し、故事成語を使って短い文章を作る	【思判表】故事成語と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。(書く)ア
	少年の日の思い出	5	・作品の展開を捉え、表現に着目して、「僕」の心情の変化をまとめる。	【思判表】文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(読む)エ
	[書く]別の人物の視点から文章を書き換えよう	2	・別の人物の視点から文章を書き換える。	【思判表】根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(書く)ウ
	文法3 ②単語の分類	1	・「品詞」、「体言と用言」について理解する。	【知技】単語の類別について理解している。(1)エ
	二十歳になった日	4	心情を表す語句や表現などに着目し、構成や表現の効果について考える。	【思判表】文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(読む)エ
	2 構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く	5	・「読み手が状況をイメージできる具体的な描写の体験」を入れた構成で、描写を工夫して、随筆を書く。	【思判表】根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだしている。(書く)オ
	漢字の成り立ち	1	・漢字の成り立ちについて理解する。	【知技】漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。(1)イ
	3 一年間の学びを振り返ろう 要点を資料にまとめ、発表する	4	・情報を整理し、発表内容を決め、発表資料を使い、伝えたいことを明確にしなが、相手の反応を踏まえて話す。	【思判表】聞き手の反応を踏まえて、考えがわかりやすく伝わるように、用いる言葉を工夫して話している。(話聞)ウ
	ぼくがここに	2	・詩を読み、表現の意味や、表現技法について考える。	【知技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。(1)オ
国語の力試し	3	・実力問題を解き、1年間でつけるべき力のどの部分に課題があったのかを分析する。	【思判表】 (読む)ア・エ (話・聞)オ (書く)ア・エ 【知技】 (3)ア	

